



ベルギー・ナミュール市



学校訪問

College Notre-Dame de la Paix

まず、最初に思ったことは・・・とにかく学校が大きい！
ということ。
わたしたちの通っている学校の5倍はかるくこえると思います。
そして、生徒の数がものすごく多い！ということ。
私たちが校舎に入った瞬間、小学生の子たちがものすごい勢いで走ってきまわった！！（`Д´lll）
英語での質問ラッシュで笑っていることしかできませんでした。
この学校は、小・中・高一貫で受験がないんですっ
うらやましい・・・

・・・そして、どうとうダンスのパフォーマンス！

入ってきた生徒は高校生。

「・・・ちゃんとしてくれるだろうか」

「・・・しけた空気にならないだろうか」

そんな不安をいだきつつ、ついにその時間が

つづ

AKBの曲が流れた時、一瞬ボカーン・・・

とじていましたが、おどろき始めると、いっし

ょにリズムに乗って、わらってくれました。

緊張したけど楽しかったです。



この研修ではたくさんのことを経験できてとてもためになりました。
飛行機でちょっと移動しただけでこんなに風景が変わるものなんだと感動し
ました。

また、片言の英語しかしゃべることができなくてとてももどかしかったけど、通
じたときの感動は今も忘れられません。英語をもっと学びたいと思っだし、ベル
ギー以外にも外国に行きたいという事ができました。

ほんとうに今回、研修に行かせてもらったことに感謝しています。

高井 萌華



ホームステイINベルギー

今回の研修で一番心に残った事は、ホームステイです。

海外にホームステイをするのは初めてだった
ので、すごく不安でした。でもホストファミ
リーの人たちは、僕を温かく迎えてくれま
した。ほっとしました。また、日が経つに
連れてだんだん会話も増えてきました。自分
の力を最大限に発揮できました。初めて自分
の英語が通じたときは、すごく嬉しかったです。ベルギーでは、基
本毎朝パンだそうです。ホームステイの間、ご飯は食べなかったの
で、ここで日本食のおいしさを再実感できました。



日本との違いはまだありました。例えば、
コンセントです。

日本の場合差込口は四角形ですが、ベルギー
では円形です。



また、家は非常に大きく、レンガ造りの家
が多かったです。

とても街並みがきれいでした。

ホストファミリーとは、いろいろなお
城を覗に行ったり、バスケットボールを
したりしました。研修が終わった今でも、
それらの事は鮮明に覚えています。
一生の思い出を作ることが出来ました。



大谷 怜

♪ベルギー訪問体験記♪

ホストファミリーデー

ホストファミリーデーにはナミュールのお祭りに連れ
て行ってもらいました。竹馬のようなものに乗った人がた
くさんいて、パフォーマンスをしていました。



パフォーマンスのなかには、アメリカ
から来た人も！何ともグローバルで
す・・・

そこで初めてベルギーワッフルを食べました。生地は
モチモチしていて、上に砂糖がかかっている、とても
美味しかったです！



ファミリーとの生活



家族はお父さんとお姉ちゃんとお兄ちゃんの三人と、
ネコのジューズでした。お父さんはすごくタフで、家に
あったプールでよくおおいでいま
した。食事はすごくおいしかった
けれど、主食がパンではなく、



ジャガイモばかりだったので、おどろきました！料理は
お兄ちゃんがつくっていました。お父さんも絶賛して
いました。毎日お父さんとお兄ちゃんは夕食に赤ワインを飲んでいました。
最終日の夕飯は、ポロニアソーセージの Pasta でした。

おわりに

ベルギーは、とても景色がきれいで、まさにヨーロッパといった感じでした。
言葉は英語が通じたので良かったけれど、日本とちがう生活環境にはとまどい
ました。また、「自分から」行動することが大切だと思いました。この経験を生
かして、何事にも積極的に取り組んでいけるようにしたいです。 中里智絵

平成 23 年度 海外交流事業 ベルギー派遣 体験記

大垣市立西部中学校 1 年 井戸瑞歩

1. 体験記

ベルギー 国立自然公園

Parc Naturel Haute Sûre Forêt d'Anlier

山々に囲まれた自然豊か
でとても広い自然公園でし
た。あまりに広く、どこまで
が国立公園なのかわかり
ませんでした。

あまりに広いので、乗り物
に乗って公園内を見て回りま
した。

動物は放し飼いされ、のんびりゆったり暮らしていま
す。



2. その他の体験

ホームステイ

毎日、一緒にお料理をしまし
た。

庭にあるトランポリンで一緒に
遊び楽しかったです。

庭には、リンゴの木があり、い
っぱい実がなっていました。そ
の実をとって、一緒にアップル
パイを作って食べました。甘酸
っぱくて本当においしかったです。



外国人市民支援事業 ～日本語学習支援事業～

平成10年度から「言葉の壁」を取り除くための取り組みとして、日本語指導ボランティアの皆さんとマンツーマン方式で日本語の支援をする活動を始めました。現在は、日本語教室なども実施していますが、このマンツーマン方式の活動から日本語学習支援は始まりました。8月末現在、108名の方が98名のボランティアさんから日本語を学んでいます。

いつも熱心に支援してくださっている日本語指導ボランティアの皆さん。実際に教えてみての感想をお聞きました。

野村 早希



私が日本語ボランティアを始めたきっかけは、日本語教師になりたいと思ったからです。日本語が好きで、外国にも興味を持った私は大学で日本語学を専攻しました。その学んだ知識を生かしたいと思い学生の頃から日本語ボランティアに参加しました。生かしたいと言っても、最初はどうやって教えるのかも分からず他愛のない会話が終わってしまうこともありました。また、学習者からの質問にも分かりやすく答えられず反省することが多々ありました。そこで、卒業を節目に一度ボランティアをやめて日本語教師の資格を取得し、今年から再びボランティアを始めました。すぐに上手く教えることは出来ませんが、学んだ文型を使って会話の幅が広がるようになったり、冗談が言えるようになったり、「ありがとう」と言ってもらえるところにやりがいを感じます。最近では、休日の出来事を聞くことが楽しみです。これからも、楽しいと思ってもらえるような時間を過ごしていきたいです。

後藤 直美「日本語ボランティアを始めて」

私が日本語ボランティアについて知ったのは、数年前のことで、息子の通う小学校で国際交流協会の方の活動をお聞きしたのが初めてでした。その頃は子供もまだ小さく、よい活動だと思いましたが、実際に行くことは難しいなという印象でした。

その後、仕事でブラジル人の方にお会いすることがありました。

日本人は周りに外国人の方がほとんどいないこともあり、外国人に対して苦手意識があると思います。勇気を持って日本に来てくださった外国人の方々は素晴らしいと思いますが、言葉の壁もありどうしても遠巻きにしようという傾向が私にもありました。

しかし、お仕事でお会いしたブラジル人の方々はとてもまじめに私の話を聞いてくださり、何か少しでもお手伝いがしたいという気持ちになりました。

それで、5年ほど前から日本語ボランティアを始めました。

実際に始めてみると、私自信が国語も英語も得意なほうではなく、進め方について悩むこともありました。そんな時には、国際交流協会のスタッフの方に相談したり、時折開催される日本語の教え方講座になるべく参加するようにしました。その中で先生がおっしゃった「学習者の方には美しく、正しい日本語のシャワーをたくさん浴びせてあげてください。」という言葉が印象的でした。

そのようなことを心がけ、これからも続けていきたいと思っています。



安田 良朗「日本語を外国の人に教えるに当たって」

「日本語指導を始めるきっかけ」

以前勤務先で外国からの電話や外国からの来客時の対応等を通して、また自社工場で働いている中国やブラジルの人達とのコミュニケーションにおいて、外国語が話せる・日本語が話せることの大切さを常々感じていた時、日本語指導ボランティアの募集を知り、日本語指導を通じて自分自身も一緒に学ぶ事、また異なる文化・歴史を持つ人との交流も楽しみに応募しました。

「日本語指導において」

日本語指導に係わって約2年半になりますが、一人一人日本語の会話・読み書きのレベルは異なり、日本語学習の目的もそれぞれ異なることから、学習者の目的に近づけるよう私自身学習者のことを知り、何を教えたらいいいのか・どういう方法で教えたらいのか・使える教材は何かを探り、指導に取り組むようにしています。



指導は①挨拶、天候や季節の話や今週の出来事等に始まり②前回の学習を確認し③今回の学習項目を説明し④練習し⑤絵を見て説明したり、実際に使えるか質問したり、話をしてもらったりの応用練習という流れで行っています。

今回の学習者は言葉を沢山覚えて、沢山話せるようになって将来日本の企業で働きたいとのこと。学習者の思いに少しでも近づけるよう目的意識を持って明るく、心地の良い時間を作り、「今日も一杯勉強した」「来週もまた頑張ってみよう」と感じてもらえるよう私自身も頑張っており取り組んでいます。

そういう意味で学習前後の「こんにちは」「どうぞよろしく」「お疲れさま」「ありがとうございました」「来週もよろしくお願いします」というお互いの言葉の響きを大切にしています。

マンツーマン方式日本語学習を受けている外国人の方に、日本語を学んでの体験談を聞きました。

- ①なぜ日本語を勉強しようと思ったのですか？
- ②日本語の難しい点、日本語の失敗談を聞かせてください。
- ③日本語の成果
- ④あなたから見た日本の言葉、文化、生活様式などで、自分の国との違いを教えてください。

オスカル ムラマツ (ブラジル、写真右)



- ①まず、仕事のためです。リーマンショック以前は、日本語が分からなくても仕事がありましたが、今は、日本語が出来ないと仕事がありません。また、現在小学6年生と高校1年生の子どもがいますが、子どもの方が日本語ができるようになり、自分もがんばらないといけないと思ったからです。
- ②友達の話ですが、日本語が読めないため、スーパーで砂糖と塩を間違えた、猫用の缶詰を間違えて買った、という失敗談があります。
- ③「です」「ます」を使い丁寧な言葉が話せるようになったことです。例えば、以前は会社でも「できない」という言い方しかできませんでしたが、今は「できません」と言えるようになりました。
- ④ブラジルの学校は、半日授業。午前だけ行く人、午後だけ行く人と分かれているので時間が短いです。そして、子ども達は小さいスーツケースで通学します。教科書が重たいので、日本の学校も変えて欲しいですね。

岩水 玲子 (中国、写真右)

- ①自分の思っていることを伝えられるようになりたかったからです。
- ②1つ目は、発音です。日本人の会話から聞いて覚えた言葉は正確に発音が分からなく「ー(伸ばす音)」や濁点が難しいです。また、普段使わない言葉の発音が難しく、自分で言っているつもりと違うことを言ってしまうことがあります。「真っ暗」と言ったつもりが「真っ黒」と言った、「教師」と「キョンシー」などです。2つ目は、話す相手によって使う言葉を変えなければいけないことです。会社では「丁寧語」で、友達とは「くだけた言葉」。また方言と標準語。相手によって言葉を変えることは難しいです。
- ③日本語を話すことに自信を持つことができました。以前は間違いを恐れて話せなかったけれど、日本語学習を始めてから話すことに自信が持て、周りの人に「間違っていたら、直して欲しい」と言えるようになり、積極的に会話ができるようになりました。また、以前は単語でしか話せなかったのが、文章で話せるようになったことです。
- ④声の大きさ。中国人は声が大きいですが、日本人は優しい声で話します。日本に来た頃は、大きな声で話していましたが、私より長く日本にいる家族から「もっと小さい声で話して!」と言われ、声を小さくするようになりました。先日、日本の披露宴に行ったら、とても静かでびっくりしました。中国では、みんな声が大きいので隣の人の声が聞こえないくらい賑やかです。



ジョディ コンディック (イギリス、写真左)



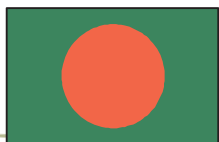
- ①一番の目的は、日本語がべらべらになりたかったからです。英語を教える仕事では、ほとんど英語しか話すことはなく、生活する上では日本語が話せないと困ることが多かったため、日本語を話すチャンスが必要でした。
- ②一番困るのは、病気になった時です。イギリスでは、基本的にGPと呼ばれる内科の医者に診てもらいます。それからしか、専門の病院にかかれません。しかし、日本は、内科、胃腸科、皮膚科などたくさんの病院があるため、例えば気分が悪い時、どの医者に行けばよいのか分かりません。また、どのように病院の情報を探せばよいのか難しいです。
- ③日本語だけでなく、日本の習慣や文化、季節行事などたくさん学びました。また、「おつかれさまでした」など、場合によって使いわける挨拶も学びました。
- ④一番の違いは、日本人は直接的な言い方をしないこと、「建前と本音」があることです。本当の気持ちと言葉の表現が異なるなど、相手の人の思っていることが分からない時があります。

ラマダ ジョセフス ジュル ダト (フィリピン、写真右)

- ①まずは、日本で安定して働くためです。また、子どもの教育のために、日本の教育システムや行事について理解する必要があると思ったからです。
- ②子どもの保育園の園便りにはたくさんの漢字があって、以前は持ち物などがわからず、持たせることができませんでした。
- ③始めは全然わからなかった職場の上司の指示がわかるようになりました。また漢字も簡単なものならわかるようになりました。そして、勉強する際は、丁寧な言葉を覚えるように気をつけています。
- ④・親戚や家族に対する意識。フィリピンは家族で集まる時間が多いし大切にします。日本はみんな忙しいせいか、家族の時間が少ないと思います。
・冗談の量。日本人はあまり冗談を言わないが、フィリピン人はよく冗談を言います。
・温泉や銭湯などの公衆浴場について。フィリピンだと公衆浴場でも個室に区切られているが、日本はみんなと一緒に服を脱いだり湯につかったりするので、とても驚きました。
・フィリピンは寒いところでも8℃くらい。年中Tシャツで生活できるため、「衣替え」という考え方がなかったので、初めて知ったときは驚きました。雪も日本に来て初めて体験しました。
・日本人は知り合いに会ったときに「顔を下げる」(会釈をする)が、フィリピンの若者は知り合いに会って「顔を上げる」しづさをします。



海外事情紹介事業 ～いろいろな国・地域の文化紹介をしました～



平成20年度 Bangladesh料理講座

講師:ザハン・サブリナ、アジモ(Bangladesh出身)

Bangladeshで一般的な料理を紹介しました。野菜などの具を生地で包んだ「パティシャプタ」、ココナッツミルクを使った甘い「スウィートパスタ」、野菜の揚げ物「ジャルプーア」の3品。いずれも、日本で馴染みのある食材ばかりで、参加者はレパートリーを増やそうと楽しみながら調理しました。調理後の試食会では、講師が Bangladeshの歌を披露。とても和やかな講座となりました。



平成21年度 中国料理講座

講師:丁 之兵、寧 徳田(中国出身)

中国でコックをしていた経験を持つ方を講師に招いて「手作り肉まん教室」と題し、実施しました。肉まんのほか、野菜まん、砂糖まんといった日本では馴染みのない料理も紹介してもらいました。特に、肉団子のスープが好評でした。



平成21年度 ブラジル文化講座

講師:林 楚仁(ブラジル出身)ほか7名

「ブラジルを味わおう」と題し、ブラジルの移民の歴史などを紹介したあと、ブラジルの一般的なパン「ポンデケージョ」を作り、味わいました。ブラジルの音楽をBGMに、楽しく作ることができました。



平成22年度 フィリピン料理講座

講師:ヤマモト・メリー・ジェーン(フィリピン国籍)

多彩なフィリピン料理のうち、フィリピン風野菜とひき肉の炒め物「ギニリン」、フィリピン風焼きなす「トルタンタロン」、バナナの春巻き「トゥロン」の3品を作りました。食材はいずれも、日本に馴染みのあるものばかり。大垣市在住外国人が、ブラジル、中国、韓国・朝鮮に次いで多い4番目のフィリピン。料理だけでなく、フィリピンのことを知ってもらうため、フィリピンの紹介をクイズ形式にしてお伝えしました。



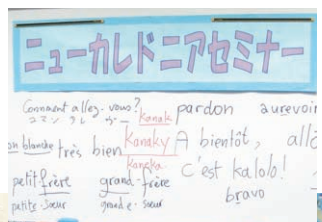
海外出身の人々と一緒に暮らす私達。海外の文化を知ること、お互いの文化・習慣を尊重し合えるような地域になるよう、異文化紹介講座を実施しました。



平成22年度 ニューカレドニア講座

講師:マイコ・ゴビ(岐阜県国際課 国際交流員)

「ニューカレドニアセミナー」と題し、フランス領ニューカレドニアを紹介しました。南の楽園と呼ばれるニューカレドニア。公用語であるフランス語を学んだり、ゆったりとした動きの伝統的な踊りを参加者みんなで挑戦したり、ニューカレドニアを満喫しました。



平成24年度 中国文化講座

講師:龔 超(岐阜県国際交流センター 国際交流員)

「中国の若者は今!」というタイトルで、現代の中国の子どもたちの生活や興味を持っていることなど紹介しました。前半はお菓子作り。日本ではあまり知られていない「菊花酥(ジュウ・ファー・スウ)」というお菓子。小麦粉やあんこなど、日本でも簡単に手に入る食材を使い、花を模したとてもかわいらしいお菓子ができました。

後半の文化紹介講座では、子どもたちの勉強時間の長さや学校生活など、特に今の中国の若者についての紹介がありました。また、中国の教育現場でも行われている疲れ目対策の目のマッサージ方法の実演もありました。



平成23年度 台湾を知ろう!

講師:陳 羽稜

(岐阜県国際交流センター 在住外国人行政相談員)

台湾の料理「ビーフン」「ルーロー飯」を作り、みんなで味わいました。また、台湾の歴史、教育、お祭りなどの年中行事、屋台での朝食文化や人々の生活などの紹介をしました。



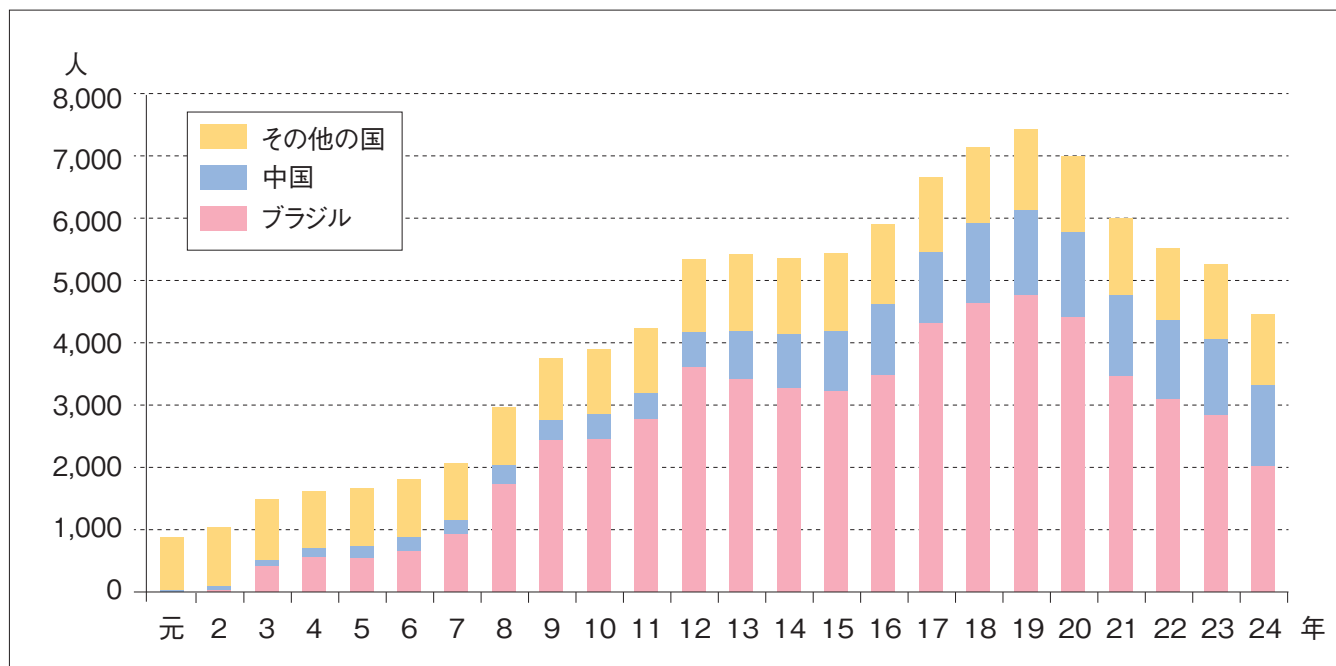
平成24年度 オマーン文化講座

講師:水野 智裕(岐阜県国際戦略推進課 主査、元在オマーン日本国大使館書記官)

水谷 哲也(大垣市出身、ファッションデザイナー)

日本とオマーンの外交関係樹立40周年を記念し、人々の生活の様子や食べ物の紹介をしました。デザートと呼ばれる果物の試食、乳香(お香の一種)の体験、講師の水谷さんがデザインしたオマーンの民族衣装と和服を融合した衣装の試着など、オマーンの紹介をしました。参加者は、現物に触れ、とても楽しんでいました。(岐阜県国際交流センターとの共催事業)





インフオメーション

【行事予定とお知らせ】

※外国人市民のための行政手続相談会

毎月第1日曜日 13:00～15:00(事前予約制)

ビザなどの手続きについての相談会です。

予約、通訳の有無については本協会まで、お問い合わせください。

※海外研修派遣団員の報告会

11月9日(土) 13:30～15:30

スイトピアセンター 男女共同賛画活動室にて
今年度の研修派遣事業でベルギー・ナミュール市
へ行った中学生による報告会です。
皆様のご参加をお待ちしております。

大垣市内在住外国人の国籍別人数表

総数:4,305人(3月号との比較 -79人)

※平成25年8月末現在

国籍	人数	3月号との比較	国籍	人数	3月号との比較	国籍	人数	3月号との比較
ブラジル	1,957	-75	ドミニカ共和国	6	0	イラン	1	-1
中国	1,249	1	マレーシア	6	1	ナイジェリア	1	0
韓国又は朝鮮	389	-9	メキシコ	6	2	ロシア	1	0
フィリピン	305	10	エジプト	5	2	スウェーデン	1	0
ペルー	154	3	ボリビア	4	-1	シンガポール	1	0
ベトナム	37	12	コロンビア	4	-2	アイルランド	1	0
アメリカ	35	-7	イタリア	3	0	コートジボワール	1	0
ネパール	31	2	ニュージーランド	3	-1	ウクライナ	1	0
インドネシア	21	-3	パラグアイ	3	1	ラオス	0	-4
スリランカ	12	-3	アルゼンチン	2	0	カンボジア	0	-2
バングラデシュ	11	4	オーストラリア	2	-1	アフガニスタン	0	-1
タイ	10	-8	フランス	2	-3	ベナン	0	-1
イギリス	9	0	インド	2	-1	無国籍	1	0
台湾	8	5	モンゴル	2	0	出生による経過滞在者	0	-4
カナダ	7	4	オランダ	2	0			
パキスタン	7	1	トルコ	2	0			

【皆様からの情報をお待ちしております】

皆様の身近での国際交流活動や海外での異文化体験などの情報がありましたら、事務局までお知らせください。また、ご意見、ご感想などありましたら、併せてお寄せください。

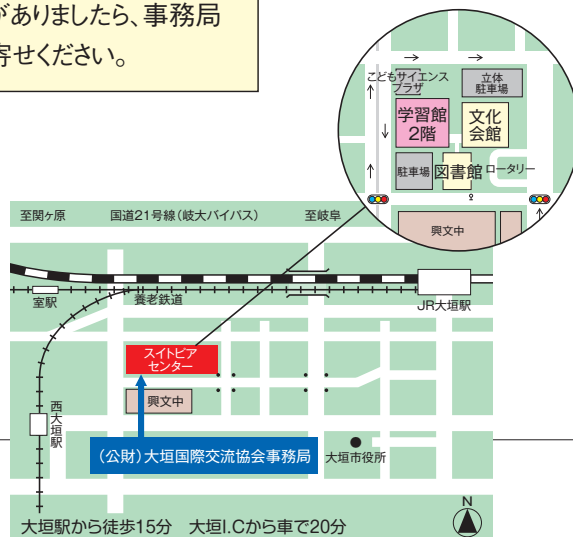
編集後記

25周年 ありがとうございます

「フレンドリー」77号は、20周年からの5年間を振り返り、編集をいたしました。

この間、鳥インフルエンザ、大震災による福島原発事故等で派遣・受入が中断されることもありましたが、フレンドリーに掲載された派遣学生・受入学生さんの感想や、ボランティアさんの活動、海外紹介を読みますと、笑顔とありがとうの言葉が聴かれます。世界中に、この、笑顔とありがとう・ごめんなさいの言い合える、フレンドリーな時がくることを願って25周年記念号を編集いたしました。

また、表紙の「ありがとう 25周年」の書をお書きいただきました、臼井千里先生に厚く感謝申し上げます。ありがとうございました。



フレンドリー No.77 (25周年記念号)

編集／公益財団法人 大垣国際交流協会 広報委員会

〒503-0911 大垣市室本町5丁目51番地 スイトピアセンター学習館2階

TEL(0584)82-2311 FAX(0584)82-2314

http://www.i-oiea.jp/ [E-mail] oiea@mb.ginet.or.jp

発行／2013年9月

印刷／サンメッセ株式会社